

大田市立病院新改革プランの点検・評価報告書  
(令和元年度 実施状況)

令和2年10月

大田市立病院運営評価委員会

## 目 次

1. 大田市立病院新改革プラン点検・評価報告	…1
2. 大田市立病院新改革プラン個別評価事項	…2
3. 大田市立病院運営における令和元年度の取組状況及び結果	…4
4. 大田市立病院新改革プランに基づく数値計画、目標の達成状況	…11
5. 大田市立病院新改革プラン運営評価委員会委員名簿	…14
(参考)大田市立病院概要	…14

# 1. 大田市立病院新改革プラン点検・評価報告

良質な医療の提供と健全な経営の確立のためには、院内組織による検討だけでなく、外部組織による客観的な評価・提言が必要である。

よって、大田市立病院新改革プランでは、プランの実施状況の点検・評価について、外部有識者からなる運営評価委員会を設置し、平成30年度から4か年にかけて毎年行うこととしている。

今回、プランの令和元年度進捗状況に対する点検・評価を行ったことからその結果を報告する。

団体名	大田市
プランの名称	大田市立病院新改革プラン
策定日	平成29年3月29日
計画期間	平成29年度～令和2年度

## (1) 点検・評価方法

大田市立病院運営評価委員会による点検・評価

- ・委員…外部有識者9人
- ・委員会開催日…令和2年8月31日
- ・方法…委員9人による項目別点検・評価を実施

### 【項目】

- 1) 収入確保対策、2) 経費削減・抑制対策、3) 経営安定化対策、4) その他の対策

### 【評価区分】

- A…目標が達成されている
- B…取り組みはしているが、現状未達成である
- C…目標が未達成である

## (2) 点検・評価結果

(単位:人)

項目	評価区分		
	A	B	C
1) 収入確保対策	5	4	0
2) 経費削減・抑制対策	5	4	0
3) 経営安定化対策	5	4	0
4) その他の対策	7	2	0

※表中の数字は評価した委員の人数

## 2. 大田市立病院新改革プラン個別評価事項

項目	評価・改善事項
1 収入確保 対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●常勤医師の確保について努力されている。新病院完成時の目標30人もクリアし37名体制で運営しており機能強化が図れることを期待したい。</li> <li>●整形外科常勤医師確保について、大いに評価。診療圏域の整形外科診療体制に期待し収入確保にも貢献してほしい。手術等、緊急対応には限度があると思われ、引き続き大田市と共に拠点病院として医師確保に尽力いただきたい。</li> <li>●実績のある外科常勤医師が急に退職されており、かかりつけ医にとって、暫く不安があった。医師との顔の見える間柄には日数を要し、配慮が必要。</li> <li>●経常収支比率等、収支改善目標が達成されている。</li> <li>●今後、病院事業基金が減少する中で、資金対策についてしっかりと経営改革コンサルタント等を通じ経営努力をして欲しい。</li> <li>●収入確保の一番は患者数確保と病床稼働率の向上であり病床コントロールチームの活躍に期待する。</li> <li>●救急患者数・手術件数・分娩件数等昨年を下回って減少傾向が見受けられる。収入確保の努力を多とするものの、現実の数値に着目してほしい。</li> <li>●看護体制維持の7対1看護師確保の努力を認めたい。</li> <li>●健診事業はもっと拡充すべき。行政ともしっかり連携し健診稼働率を高めてほしい。</li> <li>●人間ドック、まめネットなどはまだまだPRや説明が必要。</li> <li>●医診連携等深めるためにも、まめネットの加入率の増加、人間ドックの受診率の増加は行政との連携のできるので、一層の強化を図って欲しい。</li> <li>●退院支援の取り組みはとても良い。自宅訪問などは本人だけでなく、家族にとっても心強く、相談しやすいと聞く。</li> <li>●訪問リハビリに関しては、希望されている患者さんも多く、スタッフに余裕があれば充実を期待したい。</li> <li>●他圏域から転院受け入れを積極的に行っていることが受入件数からうかがえる。</li> <li>●病棟入れ替えによる診療単価の増加、専門外来の取り組みなど、診療機能の充実に取り組んでいることについて評価できる。</li> <li>●病診連携の観点から医師会と連携し、信頼関係を構築してほしい。このことが市立病院を信頼し患者紹介にもつながる。市立病院で対応できる医療は市立病院でしっかりと対応してほしい。</li> <li>●病診連携をすすめるうえで診療所訪問は良い取り組みと考える。訪問を定期的に行っていただきたい。</li> <li>●病診連携はスムーズに遂行されているが、一部、患者さんへの説明・同意の点で問題を感じている。</li> <li>●紹介に対しての返書が少ないのも問題。何とか解決して欲しい。</li> </ul>
2 経費削減・ 抑制対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●看護師等時間外勤務の縮減に積極的に取り組まれている。</li> <li>●人件費の適正化として、運営評価委員会でも指摘したが必要としない会議は極力抑制してほしい。診療部門、看護部門、事務部門など徹底した業務の見直しをして改善してほしい。</li> <li>●人件費、委託費の適正化がなされていると判断。</li> <li>●ベンチマークシステムを活用した診療材料費等削減を進めるべき。</li> <li>●医薬品の共同購入、後発医薬品の導入、診療材料の購入にあたっては徹底した管理に努めてほしい。</li> <li>●薬剤等の費用の適正化縮減などに取り組んでいるが、病院全体の経費削減・抑制としては、人件費の適正化が大きな課題ではないかと考えられる。</li> <li>●医事室の配置人員見直しと診療報酬の精度管理を図ってほしい。窓口受付も丁寧な対応を指導してほしい。</li> <li>●医療機器の整備にあたってはしっかりと稼働率を検証してほしい。高額医療機器の稼働状況を運営評価委員会に公表してほしい。</li> </ul>

項目	評価・改善事項
3 経営 安定化 対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療従事者の確保・育成・実習に努力されており、今後も島根大学医学部・島根県医療審議会・県内基幹型臨床研修連絡会等と更に連携を密にされることをお願いしたい。</li> <li>●目標は達成されていると思うが、地域卒医師に戻って来てもらうような積極的な働きかけ、仕組みづくりをお願いしたい。</li> <li>●初期臨床研修医の増加、実習の積極的な受け入れ、職員の経営参画意識の向上策など評価できる。</li> <li>●大田市出身医学生・研修医とのつながりの強化については、市と市立病院が連携して今後も取り組んでいくことが必要。</li> <li>●患者による満足度調査結果入院患者からは満足・ほぼ満足が55%を超え、一方外来患者の満足・ほぼ満足が45.7%で10ポイント下回っている。入院患者に対する病棟看護師の努力が見える。一方、外来は、受付、支払、診察への待ち時間が関係しているものと感じる。受付支払窓口は病院の顔。過度の笑みは不要だが、スムーズでスマイルな対応を願いたい。</li> <li>●医療従事者全体への要望として、しっかりと患者に寄り添う職員であってほしい。</li> <li>●病院への信頼性の評価として窓口職員の対応について、事務的な対応であってはならない。「窓口対応」の悪さをよく聞く。しっかりと研修してほしい。</li> <li>●経営の安定には医師の確保が一番、そして患者から信頼できる医師を目指してほしい。そういう意味で「いつ何時」でも丁寧な診療に努めてほしい。</li> <li>●職員の経営意識と経営の健全化に向けて取り組んでほしい。</li> <li>●外国の方たちに対しても優しく受診しやすい病院を目指して頂きたい。</li> </ul>
4 その他の 対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公益性、公共性の高い医療の確保で、積極的な関与で症例も増えている。栄養食事指導も積極的にしている。</li> <li>●中国地区連絡協議会実動訓練に参加されるなど、さらに災害拠点病院として機能強化を図って欲しい。</li> <li>●市立病院の目指す5疾病5事業を推進するためにがん検診など積極的に取り組んでほしい。</li> <li>●一般会計からの繰入金については、公益性・公共性に十分に配慮しつつ、適正化に向けて市とともに努力することが肝要であると考えます。</li> <li>●住民の健康づくりの積極的に取り組んでほしい。出前講座の開催時間などへ柔軟な対応を要望する。</li> <li>●出前講座を住民がもっと積極的に活用されるようにして欲しい。</li> <li>●地域の医療機関としての存在感を示し、地域住民から信頼できる病院を目指してほしい。</li> <li>●リハビリテーション職員の献身さをよく耳にする。このように口コミ一つ一つがより身近な病院になると考える。勤務時間内でのやりくりで大変かと思うが、ぜひ続けて欲しい。</li> <li>●可能であればインフルエンザ流行期前に、大田市立病院には発熱外来設置を望んでいる。新型コロナウイルス感染症では地域にあった対応が必要で、大田市立病院の評価は更に高くなると思う。</li> </ul>

### 3. 大田市立病院運営における令和元年度の取組状況及び結果

1) 収入確保対策		
実行プラン		令和元年度 取組状況及び取組結果
①診療機能の維持、充実	1 常勤医師確保による診療機能強化	<b>【◆取組結果】</b> ○常勤医師数2人減。 ⇒大田総合医育成センター2人減(平成30年度末:7人→令和元年度末:5人) ⇒初期臨床研修医1人増(平成30年度末:2人→令和元年度末:3人) ・令和元年度末常勤医師数:29人(対前年度末比:△2人)  ※医師確保対策の取り組みについては「3)-①医療従事者の確保」に記載。
	2 看護師確保による7対1看護体制の堅持	<b>【◇取組状況】</b> ○看護師修学資金の貸付を継続。 ・令和元年度修学資金貸与者:7人、貸付額:380万円 ○5月29日から30日まで県内看護師養成学校等6校を訪問。 ・松江総合医療専門学校、島根県立大学、出雲医療看護専門学校、トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校、浜田医療センター附属看護学校、石見高等看護学院 <b>【◆取組結果】</b> ○常勤看護師の採用(看護師8人) ・令和元年度末常勤助産師数:15人(対前年度末比:増減なし) ・令和元年度末常勤看護師数:152人(対前年度末比:△2人)
	3 回復期医療の充実	<b>【◇取組状況】</b> ○他圏域で骨折手術等を受けられた患者の積極的な転院受入。 ○病棟での日常生活動作能力回復の取組を積極的に実施。 <b>【◆取組結果】</b> ○令和元年度転院受入件数:226件(平成30年度:177件) ○令和元年度回復期リハビリテーション病棟平均入院患者数:34.7人
	4 急性期医療と回復期医療に特化した病棟再編による診療単価の増加	<b>【◇取組状況】</b> ○病床コントロールチーム会、日々のラウンドによる適切な病床管理。 ○病棟入替(地域包括ケア病棟と急性期一般病棟)を実施。入替に伴い地域包括ケア病棟入院基本料を4から2へ上位取得。(令和元年8月1日) <b>【◆取組結果】</b> ○入院診療単価が全体で998円増加。 (令和元年度39,853円、平成30年度38,855円)
	5 外来化学療法の拡充	<b>【◇取組状況】</b> ○病棟配置のがん化学療法認定看護師による外来、在宅での横断的な看護ケア実施。 <b>【◆取組結果】</b> ○外来化学療法加算算定件数(令和元年度:352件、対前年度比:+69件)
	6 専門外来の実施	<b>【◆取組結果】</b> ○リウマチ外来(毎週月・木)、腎臓内科(毎週火)、血液・腫瘍内科(毎週水・木※平成28年3月までは週1回)、ペースメーカー外来(第2金)、小児神経外来(第1木)、小児心臓外来(毎週火)、乳児健診(毎週火)、小児予防接種(毎週金)、女性泌尿器科外来(第1・3・5木)、緩和ケア(第3木)、発達障害外来(第2木) ○看護外来の継続実施(平成30年9月) 糖尿病外来(毎週水)、ストーマ外来(毎週木)

実行プラン		令和元年度 取組状況及び取組結果
①診療機能の維持、充実	7	<p><b>【◆取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○他院からの紹介率:33.7%(対前年度比:+0.6%)</li> <li>○他院からの各種検査の外部依頼を受託。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・CT、MRI:1,830件(対前年度比:+52件)</li> <li>・骨密度:214件(対前年度比:+19件)</li> <li>・遠隔画像診断1,915件(対前年度比:+2件)</li> </ul> </li> <li>○開業医との連携強化を図るため、大田市・美郷町内24施設に対して訪問を実施。(令和元年9月)</li> </ul>
	8	<p><b>【◇取組状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医師会へ開放病床(5床)の利用促進の依頼。</li> </ul> <p><b>【◆取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者数:20人(対前年度比:+1人)、</li> <li>・利用日数:305日(対前年度比:△330日)</li> <li>・利用率16.7%(対前年度比:△18.1%)</li> </ul>
	9	<p><b>【◇取組状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○訪問看護サミット等の研修参加により、訪問看護の最新情報入手。</li> <li>○病棟業務等を行っている看護師を兼任で引き続き配置することにより訪問看護提供に係る体制を整備。</li> </ul> <p><b>【◆取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○令和元年度患者数(対前年度増減) <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護:3,908人(△80人)</li> <li>・訪問リハ:1,524人(+20人)</li> <li>・通所リハ:486人(△22人)</li> </ul> </li> </ul>
②医療の質の向上、患者サービスの向上	10	<p><b>【◇取組状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○参加・閲覧同意の普及活動。(ポスター掲示、幟の設置、普及員派遣、病院まつりでの普及活動など)</li> </ul> <p><b>【◆取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○参加同意及び閲覧同意累計件数:4,457件(令和元年度末)</li> <li>○新規参加同意及び閲覧同意件数:627件(対前年度比:+108件)</li> <li>○当院が連携カルテを閲覧した件数:173件(対前年度比:+76件)</li> <li>○他院が当院の診療情報を閲覧した件数:1,097件(対前年度比:+154件)</li> </ul>
	11	<p><b>【◇取組状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○入院患者の病態に応じた適切で柔軟な病床管理</li> </ul> <p><b>【◆取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○病床コントロールチーム会(毎週金曜日)、日々のラウンドによる適切な病床管理。</li> </ul>
	12	<p><b>【◇取組状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域医療連携室が中心となり、入院早期から患者・家族と面談し、意向確認しながら院内多職種及び院外関係機関と連携を図り、退院支援。</li> <li>○医療ニーズが高い患者が安心・安全に在宅医療に移行し、在宅療養を継続できるように自宅訪問し、退院前後訪問指導を実施。</li> <li>○院内外から求められる役割が発揮できるように平成30年度に作成した退院調整看護師育成プログラムを活用。</li> <li>○入院前から退院後の地域生活を見据えた支援を行う入退院センターについて、新病院での運用開始に向けて準備。</li> </ul> <p><b>【◆取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○退院支援加算Ⅰの算定。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・算定件数:1,133件(全ての退院患者の約1/3程度)</li> </ul> </li> <li>○退院後訪問指導料の算定。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・算定件数:2件(平成30年度:1件)</li> </ul> </li> </ul>
	13	<p><b>【◇取組状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○感染対策室に専従で感染管理認定看護師の配置。(平成28年4月1日感染防止対策加算Ⅰ取得)</li> <li>○糖尿病看護認定看護師(平成27年6月)、皮膚排泄ケア認定看護師(平成27年4月)を外来に配置。病棟、在宅での看護ケア実施。</li> <li>○がん化学療法認定看護師(平成29年7月)を病棟に配置。外来、在宅での看護ケアを横断的に実施。</li> </ul>

実行プラン		令和元年度 取組状況及び取組結果
②医療の質の向上、患者サービスの向上	14 健診事業の継続、充実	<p>【◇取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人間ドックを毎週2日(火、金曜日各定員5人)実施に拡充。(令和元年9月)</li> <li>○検診検査の継続実施。</li> <li>○乳がん、子宮がん検診の継続実施。</li> </ul> <p>【◆取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人間ドック <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度実施件数:170件(対前年度比:△22件)</li> <li>・令和元年度受託先団体:6団体(対前年度比:増減なし)</li> </ul> </li> <li>○健診検査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度実施件数:25件(対前年度比:△6件)</li> </ul> </li> <li>○乳がん、子宮がん検診 <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳がん検診:124件(対前年度比:△81件)</li> <li>・子宮がん検診:806件(対前年度比:△101件)</li> </ul> </li> </ul>
	15 新病院の建設	<p>【◇取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○建設工事は予定どおりに進み、令和2年1月31日に本体建物が竣工。その他、駐車場等の外構工事を行い、令和2年3月末時点での進捗率は、93.90%。</li> <li>○新病院への移転に向け、移転事業者の公募・選定を行い、移転計画を策定し、移転作業に着手。</li> <li>○新病院開院に向け医療機器、什器・備品、情報システム等の整備を実施。</li> <li>○新病院開院に向け、院内広報誌「銀の風」、広報おおだ、ホームページ及びぎんざんTVにより市民周知。</li> <li>○新病院の施設・設備の運用方法をまとめた「運用マニュアル」を作成。</li> </ul>
	16 全職員の接遇教育を継続的に実施	<p>【◆取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○株式会社島根人材育成代表取締役の江角尚子氏を講師に接遇研修を実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年12月3日(火)、令和2年1月10日(金)、1月15日(水)</li> <li>いずれも14:00~15:00</li> </ul> </li> </ul>
	17 患者満足度アンケートの実施及び検討	<p>【◇取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○満足度調査を平成27年度から継続実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施期間:令和元年9月9日~13日</li> <li>・回収数:外来411人、入院97人</li> </ul> </li> <li>○訪問看護満足度調査を平成25年度から継続実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施期間:令和2年1月20日~2月20日</li> <li>・回収数:71人</li> </ul> </li> </ul> <p>【◆取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調査報告書(別添資料)を作成し、院内外に周知。</li> </ul>
③診療報酬の確保	18 診療報酬改定への迅速な対応	<p>【◇取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○経営健全化検討委員会において、施設基準新規取得に向けての検討。</li> </ul> <p>【主な施設基準の取得状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア病棟入院基本料2:令和元年8月1日(変更)</li> <li>・後発医薬品使用体制加算3:令和元年9月1日(変更)</li> <li>・後発医薬品使用体制加算2:令和2年1月1日(変更)</li> <li>・内視鏡による縫合術閉鎖術:令和2年1月1日(新規)</li> <li>・看護職員夜間配置加算12対1:令和2年3月1日(変更)</li> </ul>
	19 DPCの適正運用、管理	<p>【◇取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○DPC分析システムにより、3か月毎のDPCデータ分析を実施し、各診療科へのフィードバックすることで質の高い効率的な医療の提供。</li> <li>○機能評価係数 令和元年度:0.0998(平成30年度:0.1067)</li> </ul> <p>※DPC制度(診断群分類包括評価制度)とは・・・病気に対して効率よく無駄のない透明性のある医療を行うことを評価するもので、基本的には、入院初期に医療資源を集中的に投入し、早く病気を治すことにある。結果的に入院期間(在院日数)は短くなり、患者さんの経済的な負担や身体的ストレスが軽減される。また、患者さんを効率よく最短距離で治療・回復をした場合に、病院の入院収益が最も大きくなるような仕組みになっている。</p>

実行プラン		令和元年度 取組状況及び取組結果
③診療報酬の確保	20	レセプト請求精度の向上 <b>【◇取組状況】</b> ○院内での点検・精査の強化についての継続実施。 ○診療報酬検討委員会での査定分析。 ○査定状況を医師、担当部署に情報提供。 ○診療会議において査定分析状況の周知。 <b>【◆取組結果】</b> ○令和元年度査定率:0.58%(対前年度比:+0.15%)
	21	未収金の縮減 <b>【◇取組状況】</b> ○顧問弁護士に相談し、納付勧奨文書を送付し、督促の強化。 ・令和元年12月11日送付:5人 ・令和2年3月23日送付:6人 ○不納欠損処理を実施(60人:186件:5,681千円) ○嘱託職員を1人配置。 <b>【◆取組結果】</b> ○令和元年度末診療報酬個人未収金残高:21,515千円 (対前年度末:△5,869千円)
	22	電子カルテシステムを活用した適正な収益確保及び請求漏れ防止対策の強化 <b>【◇取組状況】</b> ○電子カルテ内のポータルサイトに、患者数動向などの情報を掲示することにより情報共有化。 <b>【◆取組結果】</b> ○新電子カルテの更新により、包括入院料に関して、算定時に包括項目と出来高項目が明確に表示されるため、精度の高い算定が可能。また、機能がより充実したことにより算定の可否についてより正確に把握でき、診療報酬請求の精度が向上。

## 2)経費削減・抑制対策

実行プラン		令和元年度 取組状況及び取組結果
①人件費の適正化	23	新病院開院時期を見据えた病棟再編に伴う人員配置の適正化 <b>【◇取組状況】</b> ○病棟再編に伴う患者数に対応した適正な職員の配置転換等の実施。
	24	時間外勤務の縮減 <b>【◇取組状況】</b> ○看護師における変則3交代制勤務を引き続き実施。 ○衛生委員会にて各職場における時間外労働の実態について情報共有。
②委託費の適正化	25	業務委託内容の点検、見直しによる委託費の適正化 <b>【◇取組状況】</b> ○医療事務委託業務について、総合評価方式により業者選定し委託。 ・期間:平成30年7月1日から令和5年3月31日まで
③その他費用の適正化	26	薬剤、診療材料の適正化 <b>【◇取組状況】</b> ○※ベンチマークシステム等による材料費の価格交渉。 ・医薬品:△1,056,359円、診療材料:△1,957,088円 ○診療材料を同等機能以上で安価な製品への切替により診療材料費の削減。 ・削減額:△229,486円 ○後発医薬品への切替により、医薬品費の削減。 ・削減額:△1,538,894円 ○近隣の病院(県立中央病院ほか)との共同購入による診療材料費の削減。 ・削減額:△717,304円  ※ベンチマークシステムとは・・・システムを導入している各病院から薬剤・診療材料の契約単価や購入実績データを集計し、平均単価、採用品の市場状況等が公表される。
	27	医療機器の適正な購入 <b>【◇取組状況】</b> ○機器選定委員会による適正機器の選定。(価格、ランニングコスト、性能等の比較検討) ○新病院開院支援総合コンサルティング業務委託業者による市場価格の提示や同等品の提案により適正価格・適正機器の購入。

実行プラン			令和元年度 取組状況及び取組結果
③その他費用の適正化	28	新病院建設の建築単価抑制	【◇取組状況】 ○仕様の見直しによりコスト低減を図ったが、労務単価上昇に伴うインフレスライド及び設計変更により、結果として建築工事費が増額。
<b>3)経営安定化対策</b>			
実行プラン			令和元年度 取組状況及び取組結果
①医療従事者の確保	29	島根大学医学部、島根県及び地域医療支援センターとの連携	【◇取組状況】 ○島根大学医学部各教室を定期的に訪問し、医師派遣の要望。 ○島根県が主催する医療審議会等の場で医師不足を含めた地域医療の実態を説明。 ・島根県地域医療支援会議(令和元年12月24日) ○地域医療支援センターが主催する県内基幹型臨床研修病院連絡会(8病院)の場で、研修医の確保・研修内容等について情報交換や意見交換。 ・令和元年6月7日、8月3日、令和2年2月14日(島根大学医学部附属病院)
	30	大田市出身学生や研修医とのつながりを強化	【◇取組状況】 ○大田市出身医学生、研修医、市長と市立病院との交流会を開催。 ・令和元年7月11日 大田市、市立病院との交流会(学生、研修医13人参加) ・令和2年2月14日 市立病院との交流会(学生、研修医11人参加) ○病院広報誌「銀の風」を送付。(2回)
	31	大田総合医育成センターの支援強化	【◇取組状況】 ○総合医療学講座、育成センター会議の事務局として、会議の開催支援。 ○育成センター医師の研究支援。
	32	医療従事者の勤務環境改善	【◇取組状況】 ○事務補助員の継続配置。(医師クーク16人、外来クーク9人、病棟看護師長クーク7人)
②医療従事者の育成	33	臨床研修病院としての体制整備等	【◇取組状況】 ○臨床研修専門部会で令和2年度から受け入れる研修医の指導計画を検討、作成。 【◆取組結果】 ○初期臨床研修医受入数増。 ・令和元年度:3名(対前年度比2名増)。 ○学生、研修医の見学旅費支給制度を県内の学生3人、県外の学生1人が利用。 ○初期研修医の短期協力型研修の受入。 ・島根大学2人 青梅市立総合病院(東京都)4人 ○医学生奨学金の貸付を29年度から継続して実施 ・令和元年度奨学金貸与者:2人 貸付額:240万円
	34	医療現場実習の積極的な受入	【◆取組結果】 ○医学生実習を積極的に受入れ(5,6年生14人)、実習中に当院医師との交流会を開催。 ○養成学校からの実習受入。 ・看護師17人、准看護師29人、理学療法士3人、作業療法士1人、言語聴覚士3人、臨床工学技士1人
	35	病院見学の受入	【◆取組結果】 ○小学生の病院見学、中学生の職場体験、高校生の医療体験セミナー・インターンシップ等の受入。 ・小学生252人、中学生8人、高校生35人

実行プラン		令和元年度 取組状況及び取組結果
②医療従事者の育成	36	<b>【◇取組状況】</b> ○保険診療に関する説明会を、全職員を対象に実施。 ・令和元年12月(3日間、計4回)、令和2年2月(1回) ○毎月開催している診療会議において、患者状況及び収益状況等を説明。 ○部長職以上の職種で構成された部長会において、経営状況を説明。
	37	<b>【◇取組状況】</b> ○電子カルテシステムトップページに病院情報、経営情報の速報値を掲載し、職員の情報共有。
	38	<b>【◆取組結果】</b> ○17回開催。(8回のワーキンググループ検討会を含む)
	39	<b>【◆取組結果】</b> ○医師の人事評価制度(平成27年度より実施)の継続実施によりインセンティブを支給。

#### 4)その他の対策

実行プラン		令和元年度 取組状況及び取組結果
①公益性、公共性の高い医療の確保	40	<b>【◆取組結果】</b> ○DMAT(災害派遣医療チーム)隊員の増員。(医師1人) ○中国地区DMAT連絡協議会実動訓練への参加(医師1名・看護師2名・業務調整員2名)
	41	<b>【◇取組状況】</b> ○緩和ケアチームによる患者へのアドバイス ・緩和ケアアドバイザーを通じて、がんの患者に対して治療ケアについてアドバイス。 <b>【◆取組結果】</b> ○がんの早期発見に繋がる胃及び大腸の内視鏡検査件数増。 ・胃内視鏡検査:151件(対前年度比:+18件) ・大腸内視鏡検査:468件(対前年度比:+16件) ○胃がんの早期治療件数増。 ・胃粘膜下層剥離術:15件(対前年度比:+8件)  ※胃粘膜下層剥離術とは…早期の病変に対して、胃カメラで消化管の内腔から粘膜層を含めた粘膜下層までを剥離し、病変を一括切除するという治療法
	42	<b>【◆取組結果】</b> ○令和元年度繰入金総額:1,143,901千円
	43	<b>【◇取組状況】</b> ○地域包括ケアシステム構築に向け、院内では多職種で連携し、入退院支援。 ○地域の研修会にも積極的に参加し、顔の見える関係づくりに向け、地域の様々な関係機関(医療・介護・行政等)と連携。 ○市と委託契約により、リハビリテーション職員による介護職員や行政等への助言、住民等への助言・指導の実施。
	44	<b>【◆取組結果】</b> ○糖尿病教室(奇数月第4水曜日)の開催。(計5回、参加者116人) ○栄養食事指導実施。 ・個人指導:3,517件、集団指導:10件、27名(マタニティスクール)
②住民の健康づくり	45	<b>【◆取組結果】</b> ○出前講座の実施。(実績詳細は別添資料) ・計18回、参加者393人 ○ふれあい講座の実施。 ・計8回、参加者63人

実行プラン		令和元年度 取組状況及び取組結果
③広報活動の推進	46 広報活動の推進	<b>【◆取組結果】</b> ○病院広報誌「銀の風」を4回発行。 ○ホームページ、フェイスブックによる適時な情報発信。 ○ぎんざんテレビを活用した情報発信。
④その他	47 各種イベントの開催	<b>【◆取組結果】</b> ○病院まつりの開催。(令和元年9月8日(日)開催、来場者数約1,200人) ・ステージイベント(院内バンド演奏等)、医療体験コーナー(リハビリ体験、血圧測定等)、院内体験隊、物販飲食コーナー、パネル展示等 ○看護の日イベントの開催。(令和元年5月10日(金)開催) ・院内保育所園児の歌の披露や作品展示、栄養・訪問看護の相談コーナー、アロマハンドマッサージ、新人看護職員研修の様子を展示等
	48 職員の健康管理	<b>【◆取組結果】</b> ○衛生委員会を月1開催し、職員の健康管理に係る所管事業を実施。 ・職員定期健康診断:年2回(令和元年5月、11月) ・ストレスチェック:令和元年9月 ・各種ワクチン接種:麻疹、風疹、B型肝炎、インフルエンザ、ムンプス ・健康管理研修会:年1回開催、テーマ「睡眠セミナー(よりよく眠る方法を学ぶ)」 ○年次有給休暇5日以上取得義務化により、各所属において計画的に取得するよう所属長に周知。

## 4. 大田市立病院新改革プランに基づく数値計画、目標の達成状況

### I. 大田市立病院の果たすべき役割

#### ■ 医療機能・医療品質に係る目標

(1) 医療機能・医療品質に係る目標(新改革プランP.15)

項目	30年度 (実績)	元年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
救急患者数(人)	6,325	7,600	6,076	△ 1,524	
手術件数(人)	603	750	498	△ 252	
分娩件数(件)	225	270	205	△ 65	
臨床検査件数(件)	758,745	651,064	796,497	145,433	
画像診断装置稼働件数(件)	23,955	25,500	23,588	△ 1,912	
薬剤管理指導件数(件)	3,618	3,443	3,584	141	
栄養指導人数(人)	3,023	5,100	3,517	△ 1,583	
リハビリ件数(人)	42,305	48,900	39,088	△ 9,812	
訪問看護患者数(人)	3,988	4,803	3,908	△ 895	

(2) その他の目標(新改革プランP.15)

項目	30年度 (実績)	元年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
研修医・医学生の研修受入件数(人)	31	41	23	△ 18	
看護師・セラピスト等の実習受入人数(人)	63	88	54	△ 34	
人間ドック件数(件)	192	200	170	△ 30	
健康診断件数(件)	254	180	237	57	
健康・医療相談件数(件)	2,026	1,850	2,013	163	

### II. 経営の効率化に向けての課題と方向性

#### ■ 今後の経営効率化に向けての課題と方向性

(1) 収支改善目標(新改革プランP.24)

項目	30年度 (実績)	元年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
経常収支比率(%)	96.2	90.2	94.5	4.3	○経常収益÷経常費用×100
医業収支比率(%)	89.3	81.4	89.3	7.9	○医業収益÷医業費用×100
資金期末残高(百万円)	53	45	490	445	

## ■ 経営効率化に向けた具体的な取り組みと数値目標

### (1) 具体的な取り組みと数値目標

#### 1) 収入確保対策数値目標(新改革プランP.25)

項目	30年度 (実績)	元年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
1日平均入院患者数(人)	183.0	199.0	168.5	△ 30.5	○年延入院患者数÷入院診療日数
1日平均外来患者数(人)	440.4	478.7	455.3	△ 23.4	○年延外来患者数÷外来診療日数
入院単価(円)	38,855	39,133	39,853	720	○年延入院患者数÷入院収益
外来単価(円)	8,788	9,458	9,227	△ 231	○年延外来患者数÷外来収益
病床利用率(%)	56.8	58.7	52.4	△ 6.3	○許可病床利用率
医業収益(百万円)	3,890	4,271	3,822	△ 449	
訪問看護収益(百万円)	39	46	38	△ 8	

#### 2) 経費削減・抑制対策数値目標(新改革プランP.26)

項目	30年度 (実績)	元年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
給与費対医業収益比率(%)	71.5	65.0	72.7	7.7	○給与費÷医業収益×100
材料費対医業収益比率(%)	15.7	16.4	15.4	△ 1.0	○材料費÷医業収益×100
経費対医業収益比率(%)	17.8	16.3	18.1	1.8	○経費÷医業収益×100

#### 3) 経営安定化対策数値目標(新改革プランP.27)

項目	30年度 (実績)	元年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
常勤医師数(人)	31	27	29	2	
年度末職員数(人)	411	417	403	△ 14	

#### 4) その他の対策数値目標(新改革プランP.27)

項目	30年度 (実績)	元年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
健康講座・予防教室等の開催(回)	33	30	31	1	

## ■ 収支計画

(1) 収支計画(新改革プランP.29)

1) 収支計画(収益的収支)

(単位:百万円)

区分	年度	30年度 (実績)	元年度		比較 ②-①	備考
			(目標)①	(実績)②		
収 入	入院収益	2,593	2,850	2,448	△ 402	
	外来収益	943	1,103	1,011	△ 92	
	一般会計負担金	635	662	631	△ 31	
	その他	227	424	180	△ 244	
	計 (A)	4,398	5,039	4,270	△ 769	
支 出	給与費	2,811	2,808	2,807	△ 1	
	材料費	616	707	595	△ 112	
	経費	700	703	700	△ 3	
	減価償却費 資産減耗費	260	1,072	209	△ 863	
	支払利息	35	114	36	△ 78	
	その他	148	181	171	△ 10	
	計 (B)	4,570	5,585	4,518	△ 1,067	
差 引 (A) - (B)		△172	△ 546	△248	298	

2) 収支計画(資本的収支)

区分	年度	30年度 (実績)	元年度		比較 ②-①	備考
			(目標)①	(実績)②		
収 入	企業債	1,778	6,475	7,971	1,496	
	基金繰入金	144	44	44	0	
	一般会計負担金	272	358	513	155	
	その他	104		340	340	
	計 (A)	2,298	6,877	8,868	1,991	
支 出	建物整備費	1,872	5,083	7,583	2,500	
	器械備品整備費	65	1,600	994	△ 606	
	企業債償還金等	444	549	438	△ 111	
	長期貸付金	7	3	7	4	
	その他	0		0	0	
	計 (B)	2,388	7,235	9,022	1,787	
差 引 (A) - (B)		△ 90	△ 358	△ 154	204	

## 5. 大田市立病院運営評価委員会委員名簿

(敬称略)

所属	役職	氏名	備考
大田市議会	民生委員長	森山幸太	
大田市議会	民生副委員長	林茂樹	
大田市医師会	会長	福田一雄	副委員長
島根県県央保健所	所長	梶浦靖二	
大田市社会福祉協議会	会長	西村俊二	委員長
大田市自治会連合会	会長	森山護	
大田市立病院を守り育てる会	事務局長	渋谷次夫	
病院ボランティアカーネーション		森山朝子	
大田市	健康福祉部長	林泰州	

### (参考) 大田市立病院概要

病院名	大田市立病院
経営状態	地方公営企業法全部適用
所在地	島根県大田市大田町吉永1428番地3
病床数	339床(一般280床、療養55床、感染4床)
診療科目	内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科(計20科目)